

本美濃紙 / 美濃和紙用具ミュージアムふくべ

美濃和紙は、その耐久性と、軽くて傷みの無い外観が人気の理由です。この品質を実現するため、紙づくりの工程はまず、原材料を慎重に準備するところから始まります。展示品には、靱皮繊維の加工用具や、各工程の原材料サンプルなどが含まれています。

和紙作りに用いられる主な材料である楮（こうぞ）の白い内皮―雁皮（ガンピ属の低木）―の加工には、展示されている大きな金属製の鍋が用いられていました。硬い外皮に蒸気を当てて枝から剥がした後、内皮をこの鍋の中で、水とソーダ灰と一緒に 2 時間ほどゆでます。ソーダ灰は、繊維を柔らかくするのを助けます。ソーダ灰が入手可能になる前は、もみ殻や藁から作られた灰が用いられていました。

鍋の隣には、いつでもゆでられるように楮の枝と雁皮が積み上げられています。加工した楮の内皮の籠や叩き解した楮パルプのサンプルからは、紙繊維の生産工程の大変さが伝わってきます。